

市内景気動向調査結果

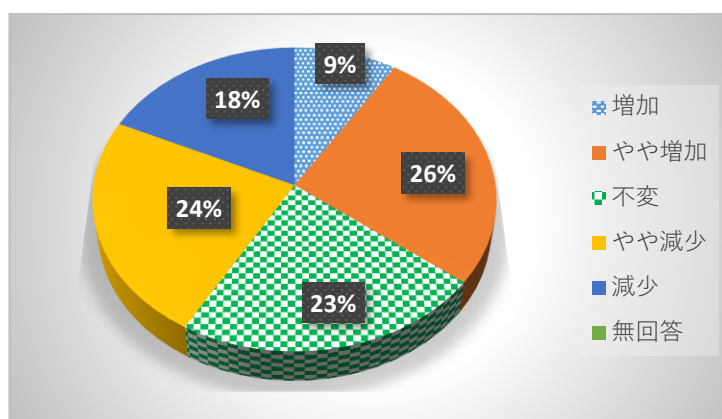
この調査は、第1四半期（本年4月から6月）と前年の同期間（3ヶ月）を比較し、当商工会員より回答いただいたものです。

有効回答数	建設業	製造業	運輸業	卸小売業	サービス業	その他
144	31	25	14	25	40	9

※その他は、回答数が少なかった不動産業、金融保険業、飲食業、

1. 売上高はどう変化したか。

増加	13
やや増加	38
不変	33
やや減少	34
減少	26
無回答	
合計	144

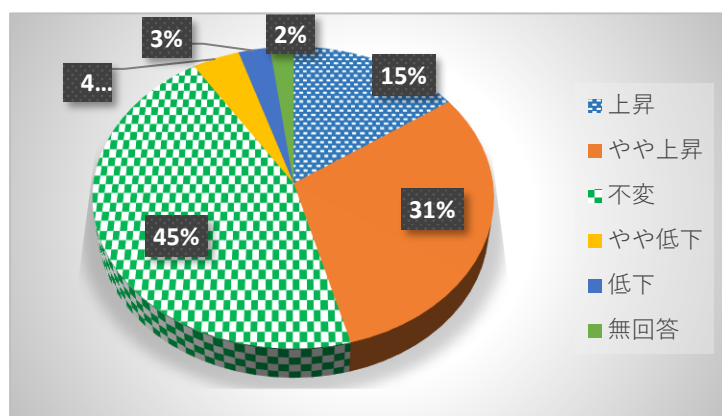


【コメント】

- 増加・やや増加が35.4%、不変が22.9%、やや減少・減少が41.7%であった。前年同期では、増加・やや増加が18.2%、不変が24.1%、やや減少・減少が56.9%であったので、若干改善傾向にある。
- 増加・やや増加の業種割合は、運輸業が57.1%、サービス業が45.0%、製造業が36.0%、卸小売業が32.0%、建設業が25.8%であった。
- やや減少・減少の業種別割合は、飲食業が100%、製造業が44.0%、サービス業が40.0%、卸小売業が36.0%、運輸業が35.7%、建設業が35.5%であった。
- 新型コロナウイルス等の影響により、各業種で業績が二極化している状況が見られる。

2. 仕入単価はどう変化したか。

上昇	22
やや上昇	44
不変	65
やや低下	6
低下	4
無回答	3
合計	144



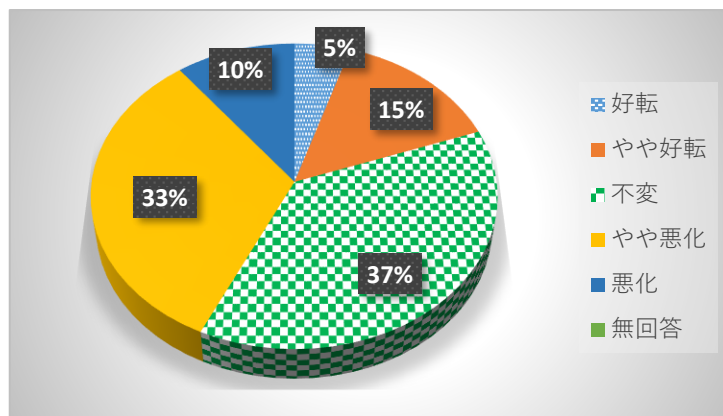
【コメント】

- 上昇・やや上昇が45.8%、不変が45.1%、やや低下・低下が6.9%であった。前年同期では、上昇・やや上昇が18.2%、不変が24.1%、やや減少・減少が56.9%であった。海外の景気回復による原料や資材の値上がりで、仕入単価が上昇した。

- 上昇・やや上昇の業種別割合は、製造業が76.0%、建設業が61.3%、その他が55.6%、卸小売業が36.0%、運輸業が28.6%、サービス業が25.0%であった。

3. 採算について

好転	7
やや好転	21
不変	54
やや悪化	47
悪化	15
無回答	
合計	144

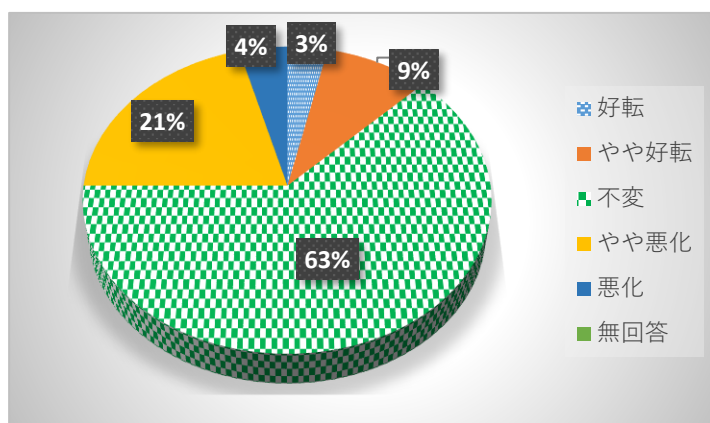


【コメント】

- 好転・やや好転が19.4%、不変が37.5%、やや悪化・悪化が43.1%であった。前年同期の好転・やや好転が14.6%、不変が36.5%、やや悪化・悪化が46.7%であった。前年同期と比較して好転・やや好転が増えているが、売上減少、仕入単価の上昇により依然として厳しい状況にある。
- やや悪化・悪化の業種別割合は、その他（飲食業を含む）が88.9%、製造業が60.0%、その他の業種においても35%以上となっている。
- 燃料価格の上昇により、今後も採算性の悪化が予想される。

4. 資金繰りについて

好転	5
やや好転	13
不変	90
やや悪化	30
悪化	6
無回答	
合計	144

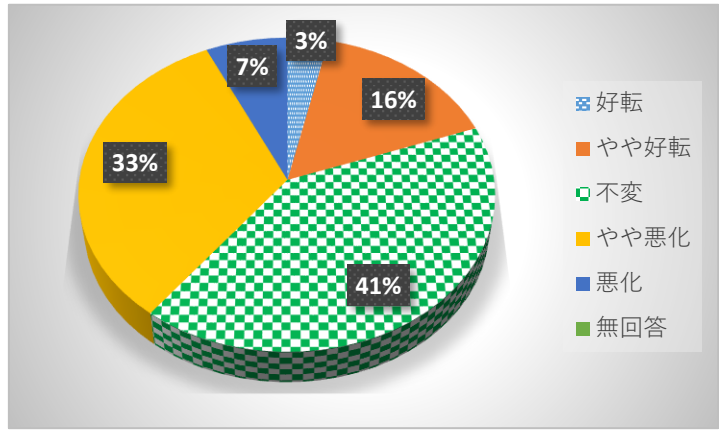


【コメント】

- 好転・やや好転は12.5%、不変が62.5%、やや悪化・悪化が25.0%であった。前年同期の好転・やや好転が9.5%、不変が59.8%、やや悪化・悪化が29.2%であった。売上減少、仕入単価等の上昇が影響した。
- 資金繰り悪化の割合が高い業種では、卸小売業が24.0%、サービス業が17.5%、運輸業が14.3%であった。

5. 業況について

好転	5
やや好転	23
不変	59
やや悪化	47
悪化	10
無回答	
合計	144

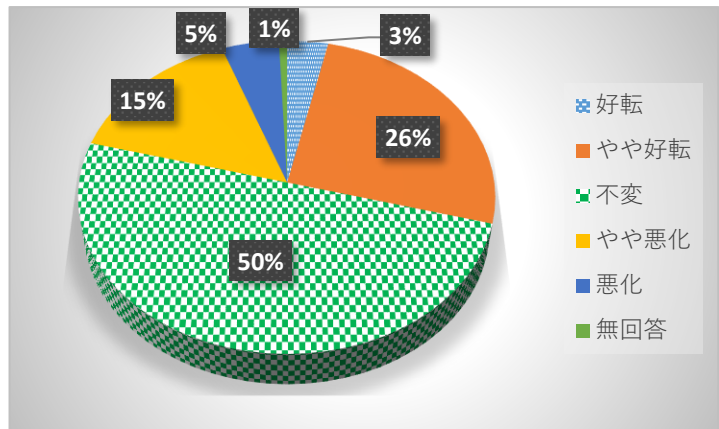


【コメント】

- 好転・やや好転は19.4%、不変が41.0%、やや悪化・悪化が39.6%であった。前年同期は、好転・やや好転が13.1%、不変が29.9%、やや悪化・悪化が55.4%で、若干ではあるが改善された。
- 業況悪化の割合が高い業種では、その他が55.6%、製造業が52.0%、卸小売業とサービス業が40.0%であった。

6. 今後3ヶ月間の業況について

好転	5
やや好転	37
不変	72
やや悪化	22
悪化	7
無回答	1
合計	144



【コメント】

- 好転・やや好転が29.2%、不変が50.0%、やや悪化・悪化が20.1%で、前年同期では、好転・やや好転が24.8%、不変が27.7%、やや悪化・悪化が46.7%であった。
- 悪化を予想する割合は減少しているが、新型コロナウイルスの感染状況が変動要因となっている

■回答事業所からのコメント

【建設業】

- コロナの影響で材料単価が高くなってきているので、これからの業況に悪化の恐れがあるかもしれない
- 仕入単価等は海外生産のものも多くコロナの影響により生産下降、単価UPになっている状況です
- 市発注の電気工事量の減少。修繕等の減少。電線類価格上昇
- 新型コロナウイルスの影響がまだ残っています
- ボールパーク関連工事が昨年に比べ大幅に多く、発注時期も早かったため
- ボールパーク関連の工事受注増（市発注）が期待される
- 受注の増加

- 現在従事している現場は、今後まだ工期があり売上等安定が見込まれるため
- 若手社員採用により活気が出てきた。徐々に戦力UPとなっており、売上也安定して確保できている
- 4月からのリフォーム助成金効果が売上増に繋がったが、世界的なウッドショックによる木材の高騰や欠品をはじめとする住宅資材の値上げが今後の業績にどのように影響を及ぼすかは予測できません
- 募集に力を入れているが人材不足で思うように工事が受注できず苦しい。この3ヶ月に現場へ出入りしている人のコロナ感染が数件あった。そのたびに現場が数日ストップするため工事に遅れが出ている。仕方ないことではあるが、この調子が続けば売上は下がる見込み
- 昨年はコロナの影響で全く工事受注がなかったが、今年は切れ間なく工事が入って忙しく回っています。昨年に比べ今年は好転に繋がっています。今年はこの後もしばらく続く予定です
- 小規模工事を中心にやっていますが、元請けからの工事が減っているため

【製造業】

- 国内ウッドショックによる納期の遅延、価格の高騰、輸入元のコロナによるロックダウンで、コンパネ等の輸入量の激減、高騰、とても先が読める状況にない。回復には数年かかるかもしれない
- 新型コロナの影響止まらず
- 昨年延期となっていた案件が徐々に動き出しの兆し。本州案件が多い
- コロナ禍の影響が減少
- 将来に対する不安要素があまりに多く、今後更に消費の落ち込みが拡大する不安が大きいため、業況好転のシナリオが描けない
- 人の動き（空港）が活発にならないと関係製造業の低迷にて好転（通常）にならない
- 昨年4～6月は、お取り寄せ需要でかつてない注文を頂いたこともあったのですが、本年はそれがおちついてしまい、コストが上がってきていることもあって、やや内容が悪いです
- 新型コロナウイルスの間接的な影響により、受診控えや一般の風邪薬等の処方が減少しており、業況は厳しさが続くと思われ
- 全国的な在庫不足と鉄鋼メーカー主導による急激な値上げが続いている。過去に経験のない事態だけに全く先を見通すことができず、特に9月以降の状況には不安がある
- 会社としては多忙な状況ではあるが、鋼材の値上がりが大きすぎ、利益を圧縮せざるを得ない。鋼材の確保もサイズによっては難しい状況になった。急激な外需のコロナ収束傾向に振り回されている。今後も内外の急激な変化に十分注意が必要
- コロナの影響による設備投資減少のためか、受注が減少している。また銅、鉄の価格高騰によりコストUPとなっている
- 民間設備投資の冷え込み、原油高騰による
- 飲食店の時短等による悪化
- 商品原材料の売上が昨年より増加したため。7～9月は製造機械の販売が予定されているため
- 新型コロナ感染症の影響がお客様に残っているため（消費マインドが低い）。感染の実態そのものよりも、メディアや風評被害を恐れるあまり、マーケット自体が消極的である
- 昨年に続き、あまりコロナの影響は受けていない
- Q2. やや増加はエンドユーザーからの紹介物件増。新規ルートが軌道に乗れば、やや好転するか？
- コロナ禍の特需により増産した分がダブっている感じです。今後についても、しばらくは低調な製造販売になると予想しております
- 当初コロナの影響で受注が減少したが回復したため

【運輸業】

- 軽油単価が上昇すると採算は悪化する可能性あり
- 仕事の取り方
- 秋に人が動きだすと商売に繋がる。延期していた修学旅行等が秋に集中するため。ただコロナ感染者数が増えれば、また人の流れが止まるので、不変もしくは悪化すると思われる
- 緊急事態宣言によって人流（アルコール類を提供する店）が減っている。まん防が終わっても変わらないと思われる
- 昨年対比だとやや好転と言わざるを得ないが、前々年対比だと依然として回復基調とは言えない状況です
- 外国人相手の仕事（バス）をしていたのですが、コロナの関係で一切外国人ツアーがなくなったため、昨年3月から売上が減少し、いろいろ助成金や借入金でやりくりしているところです
- 昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響を受けているため
- 委託配達をしていますが、売上高だけ見ると高い水準を維持しています

【卸小売業】

- 自粛要請の時期が昨年とずれたため、昨年よりは折込チラシへの影響が少なかった。オリンピックに期待して、7~9月は好転とした
- 今が悪すぎるので、これ以上の悪化は無いと思う
- 下期の業績を上昇させるためIT関係を構築し、環境を整えている状況です
- 昨年度の給付金の影響
- 仕入単価の値上げと運賃の値上げによる
- コロナ禍以降、営業の形態を変えた
- 売上高については、業者向け商品の動きは昨年より増加傾向であるが、一般向け、DIY需要商品が落ち着いてきたことにより減少傾向である。ペット、ガーデンは好調を維持している状況。今後の状況については、引き続き業者向け商品の供給対応が必要。特にウッドショックや鋼材値上げ傾向にあるので、商品確保で売上に影響が出ると思われる。デルタ株の状況、オリンピックによる感染拡大によっては今後の商品動向が大きく変化すると思われるので予想が難しいと感じている。プラス要因はワクチン接種が早く進むことで、アウトドア需要拡大し遠方からの来店増が予測される
- 国土強靱化により築堤工事の発注が多かった。（6月に集中）
- 高齢者のワクチン接種が終わると医療の逼迫が収まってくると思われますので、外出して買物や食事の回数も増えてくると思います
- コロナ禍の影響が大きい要因と思われます
- 折込チラシ

【サービス業】

- コロナしだいですが、慣れてきたこと、ゴルフでは感染しないことが定着して増加した。しかしコンペ等は半分以下になっており2019年までは戻らない
- 緊急事態宣言等により新会員募集ができなかったため、新会員が増加しなかった
- 公共工事、建設市場に左右されるため昨年並みで推移してます
- 昨年より売上はあったが、2019年のそれと比べると順調からはほど遠いものである。今後も状況によって左右されるので、正直なところ予測不能である
- 特に変化はない
- 環境に左右されない
- 新型コロナウイルスの感染への不安は続いています。さまざまな対策やワクチン接種により、少しずつですが安心感が出てきている
- コロナ感染症で、これから先が不明である
- コロナの影響で休みが多くなったりしたから
- 売上高は減少しているものの、コロナワクチンの接種が進むと人が動き出し、売上もそれに伴って増加してくると思われる

- 昨年の自粛あけから、新規獲得、イベント開催など減っているが、ほんの少しずつ回復してきている。営業、販売体系を変え、コロナ禍でも対応できるよう努力してきた結果でもあると思う。今後もよりスピーディーに対応していきたい
- コロナ禍で利用者がサービスの利用を控える傾向にあったことにより売上が減少した。児童デイサービスの新規参入が増えたことにより、新規利用者が減少した
- 取引先（食品関連機器業界）の不調で、当社売上も下がっているため
- 客層が高齢化のため悪化の一途
- コロナの影響は依然続いている。前年との比較では、やや好転しているが、前々年度との比較では落ち込んでいる。取引先（医療機関）での入院患者の制限や外来患者が通院を控えている限り、この状況が続くと思われる
- クリーニング業界は依然として各種コロナ感染対策等の影響に伴う人の往来自粛、各種イベント等の開催自粛により、一向に景気回復の時期が不透明である。売上で前年対比からも悪化状態が継続している
- 景気が良くなる理由がない
- 我が店は高齢者60才以上の方が殆どで、新規のお客様は殆どいません。開店から40年以上で3分の1の方がお亡くなりになったり、施設や病気、入院などで3分の1の方がやっのご来店してくれています。しかし足腰が弱ったり、昨年からのコロナ騒動で怖くて外出できない、髪が伸びすぎてやっとなって来てくださいますが、ご来店回数が少ないため売上は極端に少ないです。給料もやっ、いつもの半分払っている状態です
- コロナ問題で影響が出ています
- コロナの影響
- 前年4月は一度目の緊急事態宣言で、お客様の足が本当に止まっていたので前年対比としては好転したが、5月・6月は時短、土日休業要請となったため悪化。7月・8月の夏休み、お盆に期待したいところですが、第5波により、それも難しくなってきたと感じています

【その他】

- 国の緊急事態宣言による客の減少
- 不動産業に関しては物件が無い状況。建築資材の値上がり → リフォーム代金の上昇
- 5月16日より6月20日、21日より7月11日まで、緊急事態宣言やまん延防止等、休業、時短が続いた結果ですが、少しずつ戻りつつあります。7月11日以降に期待しております
- 緊急事態宣言とまん延防止の影響で、イベント、会合の減少が売上に響いています。原材料の高騰で利益を圧迫されています。解除される7月12日からの動きを期待しています
- コロナ感染で20日間休業しました。その売上のカバーができませんでした